

所ところにあ当たりてしよえい誦詠するこ古歌か

三六〇二番

あなをらによし 奈良みやこの都こに たなびける 天あまの白雲しろくも  
見みれど飽あかぬかも

三六〇三番

青楊あをやぎの 枝えだ伐り下ろし 湯種ゆだね蒔まき ゆゆしき君きみに  
恋こひ渡わたるかも

三六〇四番

妹いもが袖そで 別わかれて久ひさに なりぬれど 一ひと日も妹いもを  
忘わすれて思おもへや

三六〇五番

わたつみの 海うみに出いでたる 飾磨川しかまがは 絶たえむ日ひに  
こそ 我あが恋こひ止やまめ